

ケアプランにおけるアセスメント支援ツールの開発

†小嶋隆太

†茨城工業高等専門学校
産業技術システム
デザイン工学専攻

†小飼敬

†茨城工業高等専門学校
電子情報工学科

†村田和英

†茨城工業高等専門学校
電子情報工学科

1.はじめに

近年、日本及び先進国では高齢化社会が急速に進んでいる。日本で高齢化が進んでいる理由としては、平均寿命が延びていることが大きな要因の1つとなっている。また、2005年に行われた国勢調査による人口推計の予測によると、2055年には、総人口における65歳以上の人数の割合が約40%を占めるという。

このような高齢化社会において、介護や福祉はとても重要なものである。在宅や施設での介護など、さまざまな状況において、介護者は利用者のニーズに答えたサービスを提供していくことが必要であり、それらのプラン立てを行うのがケアマネージャである。[1]しかし、プラン立ては容易な作業ではなく、利用者の課題分析(アセスメント)に多くの時間を費やす。

そのため、本研究ではケアマネージャが、ケアプラン作成におけるアセスメントの作業を支援するツールを開発した。

2.アプリケーションの開発

2.1 概要

既存のケアプラン作成ツールには、導入のためのコストが高いことや、個人での利用が困難であるという問題があった。それらを改善するため、今回開発したツールは、ASP.NET[2]を用いてInternet Explorerなどのブラウザ上で動作するものを開発し、利用するための敷居を低くした。また、ケアプラン作成における課題分析手法はさまざまなものがあるが、本研究では

全国老人保健施設協会が提供している、包括的自立支援プログラム[3]という手法の分析法に基づいたツールを作成した。

2.2 開発

今回作成したツールには図1のような利用者の情報を入力する入力フォームが用意してある。

図1 入力フォーム

Fig.1 The figure of input form

入力フォームは名前や特別な情報以外はテキストの入力ではなく、CheckBox や RadioButton によって容易に情報を入力できるようになっている。これらの情報を入力し出力ボタンを押すと、図2のような出力画面が現れる。

図2 出力画面

Fig.2 The figure of output screen

The Development of the Application to support of assessment in
Creating care plan

† Ryuta Ojima † Kei Kogai † Kazuhide Murata
† Advanced Course of Information Engineering
Ibaraki National College of Technology
† Electronic and Computer Engineering,

図2における出力画面は、ICFというWHO国際機能生活機能分類のモデル[4]に基づいており、これは現在ケアプラン作成のために重要となっているモデルである。入力フォームから得た情報を文章化して出力しており、ICFモデルの対応する部分に分類されて出力されている。また、本ツールには図3のような利用者の情報をデータベースに保存、参照することが可能なフォームが用意してある。



図3 データベース閲覧

Fig.3 The figure of the reference a database

このように、データベースに利用者の情報を格納するによって、場所を選ばずブラウザ上で利用者の情報を確認することができる。これによりプラン作成者は端末を選ばずに情報を確認することが可能となる。

3.ツールの検証

本ツールを検証するに当たり、重要であることは、アセスメントを容易に行うことができることと、端末を選ばないといった大きく二つのことがあげられる。

前者に関しては、本ツールを用いることにより手作業でICFモデルを構成する際の作業時間を短縮することができる。また、入力方法を簡単にしていることにより、作業負担を軽減している。後者に関しては、ブラウザ上で動作するツールであるため、インターネット環境があれば使用することができる。システム導入に対する作業も容易に行うことができる。

これらのことから、アセスメント作業の負担を軽減し、既存のツールにはない導入の簡略化を実現することができたといえる。

4.課題と発展

4.1 課題

まず、個人情報を扱うことから、利用者がログインして利用し、アクセス権限の割り当てをするなど、セキュリティ面を向上する必要があると考えられる。また、今回用いた包括的自立支援プログラム以外にもいくつかの課題分析の手法があり、それぞれ特徴が異なっている。それらのサポートも必要であると考えている。

4.2 発展

本アプリケーションの発展研究としては、

1. アセスメントから実際のケアプランを作成するためのツールの作成
2. 介護される側の意見を取り入れるための入力フォーム
3. チェック欄の内容を新しいものに更新できるなどのカスタマイズ性向上などがあげられる。

5.まとめ

今回開発したツールは、手作業では時間のかかるアセスメント作業を短時間で容易に行うことを可能としている。また、ブラウザ上で動くことによって利用環境を簡単に提供することができるツールとなっている。

今後の開発では、実際に利用してもらうことによって、問題点や使いやすさを向上させ、よりよいツールを開発していきたい。

<参考文献>

- [1] 菅山信子/林隆司/峯尾武美:”やさしくわかるケアプランの作成と実例”,成美堂出版
- [2] 葛西秋雄:“ASP.NET2.0 web アプリケーション開発入門”,株式会社 ラトルズ
- [3]全国老人保健施設協会:“<http://www.roken.or.jp/member/syosiki/houkatu/houkatu.htm>”
- [4]WHO:“<http://www.who.int/classifications/icf/site/beginners/bg.pdf>”